



生理作用の活性化で作物の品質向上

登録番号輸第106347号

発酵抽出物入り
葉面散布肥料

キャノピー

キャノピーは愛称です。

保証成分量 水溶性マンガン 0.30%、水溶性ほう素 0.75%、水溶性苦土 5.3%
その他含有成分 アミノ酸18種類、有機酸など多種類を含む

キャノピーとは……

キャノピーは、ブラジル産の廃糖蜜および魚等の原材料を特殊な方法で発酵させた抽出液にマグネシウム、ほう素、マンガン等をバランス良く配合させた葉面散布肥料です。

キャノピーは作物の生理作用を活性化し、草勢、樹勢を強化して、収穫物の品質を向上させます。

キャノピーは、その構成成分が示す成分から見て「葉面から与える堆肥」ともいえる製品です。



発酵抽出物入り葉面散布肥料



使い方は簡単

水で1000倍に希釀して、葉面散布してください。

キャノピーの作物別の使用例と期待される効果です。

対象作物名	効果的な散布時期・方法例		期待される効果
も も	①開花2週間後 ②開花3週間後 ※ ③収穫4週間前 ④収穫3週間前		①・② 果肉の細胞分裂を活性化 ③・④ 果肉の細胞（果実）肥大促進 収穫適期の長期化 増糖後の収穫 過熟による規格外品の減少
り ん ご な し	①収穫6週間前 ②収穫5週間前 ③収穫4週間前		樹勢の強化 外観、食味等の品質向上 実割れの軽減（りんご） 蜜症の軽減（なし）
ハウスみかん 極早生みかん 普通温州みかん	①収穫8週間前 ②収穫6週間前 ③収穫4週間前		樹勢の強化
ぽんかん たんかん デコポン ゆかばす すだち きんかん	①満開 8週間後 ②満開12週間後 ③満開16週間後		熟期の均一化→着色促進 鮮明な着色、食味の向上
う め	①収穫4週間前 ②収穫3週間前 ③収穫2週間前 ④収穫後の礼肥施用時 ⑤落葉開始2ヶ月前		① 果肉の肥大 ② 食味の向上 ③ ヤニ果症の軽減 ④・⑤ 健全な花芽の分化 樹体内養分の蓄積増加 樹勢の保持
お う と う	①収穫3週間前 ②収穫2週間前 ③収穫1週間前 ④収穫後の礼肥施用時 ⑤落葉開始2ヶ月前		①・②・③ 樹勢の強化 熟期の均一化→着色促進 鮮明な着色、食味の向上 うるみ果の軽減 ④・⑤ 健全な花芽の分化 樹体内養分の蓄積増加 樹勢の保持
ぶ ど う	○発芽直前～収穫前まで（6回以上） ※ブルームが落ちるおそれがあるので落花直後～袋掛けまでの散布は注意してください。		玉張り向上・糖度向上・着色向上 秀品率向上・花ぶるい減少・過熟果軽減 果梗部強化による落果減少・うるみ果軽減 発芽促進・状態の良い葉（色、形、厚み） 遅霜・高温・長雨被害減少
きゅうり なす ピーマン トマト いちご にがうり	育苗期	本圃	① 健苗の育成 ②・③ 初期生育の活性化 草勢の保持 花芽分化、開花結果、果実の細胞分裂・肥大の強化 成り疲れの軽減 果面、形状、食味等の品質向上
メロン	育苗期	本圃	① 健苗の育成 ②・③ 初期生育の活性化 果肉の細胞分裂・肥大の強化 果実の品質向上 うるみ果の軽減
すいか かぼちゃ	育苗期	本圃	① 健苗の育成 ②・③ 初期生育の活性化 苦土欠の軽減 果肉の細胞分裂・肥大の強化 果実の品質向上 収穫後の鮮度保持
おくら	①第1本葉展開期 ②第3節位葉展開期 ③着果後～収穫期間中2～3週間間隔		初期生育の活性化 草勢維持 成り疲れの軽減→増収
そらまめ	①定植活着後 ②開花前 ③収穫期間中2～3週間間隔		初期生育の活性化 結莢率・結実率の向上 子実肥大の向上

※収穫直前まで1000倍で使用すると熟期が遅れる可能性がありますので、開花～収穫1ヶ月前まで1000倍、その後収穫15日前に2000倍で散布することをおすすめします（6回以上）

対象作物名	効果的な散布時期・方法例		期待される効果
さやいんげん さやえんどう えだまめ	①生育初期（草丈約10～20） ②開花始期 ③結莢始期		初期生育の活性化 結莢率の向上 成り疲れの軽減→増収
だいす あずき えんどう	①生育初期（草丈約10～20） ②開花始期 ③結莢始期		初期生育の活性化 結莢率・結実率の向上→増収 子実肥大の向上 タンパク質の増加
にら	○刈り揃え（捨て刈り）後および各収穫後ごとに草丈5～10および15～20の時期（展着剤を加用して下さい）		葉肉が厚くなる→増収 収穫後の草勢回復 鮮度保持の強化
ねぎ	○生育初期から2週間間隔（展着剤を加用して下さい）		草勢の増強、倒伏軽減 形状、食味の品質向上
なばな	育苗期 ①定植1週間前	本圃 ②生育期～収穫期間中2週間間隔	① 健苗の育成 ② 草勢の保持 新芽・やご芽の萌芽促進 外観、食味等品質向上 収穫後の鮮度保持
アスパラガス	立莖栽培 ○草丈約30時から2週間間隔		草勢の保持 健全な萌芽 成り疲れの軽減→増収
	春取り栽培 ○養生期 3回（刈り払い1ヶ月前まで）		健全な萌芽（翌年）
ほうれんそう チングンサイ こまつな	○発芽1週間後から7～10日間隔（散布は3回を限度にして下さい）		生育の促進化 葉色の濃緑化
はくさい	①定植活着直後 ②4～5葉期 ③立ち上がり時		ごま症軽減 形状、食味の向上
たばこ	育苗期 ①定植1週間前	本圃 ②定植直後 ③ワキ芽防止直後 ④2週間後	① 健苗育成 ②・③・④ 葉肉の生育活性化 葉面積の増加
すひのき	苗圃 ○播種床 ①床替1週間前		床替時の活着促進
	○床替床 ①床替直後 ②2～3週間間隔 春から夏まで		健苗の育成
きく	○親株 ①毎回の摘芯直後 ②採穂の10日前		親株の老化防止 健全な挿穗の育成
	○挿芽床 ①挿穗の水上げ時（200倍液） ②挿芽直後に葉面散布		健苗の育成
	○本圃 ①定植直後 ②摘芯直後 ③2週間間隔		商品性の向上 切り花後の鮮度保持
花き類 観葉植物	③定植直後 ②生育期間2～3週間間隔		商品性の向上

○的確な散布によって、高品質の収穫物および収量の増加が得られます。

○一般的農薬散布時に混用して散布できます。

※葉面散布剤との混用を避けるように特に注意書きのある農薬との混用や、石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性農薬との混用は避けてください。

○使用後は密栓し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼、乾燥したところに保管し、小児の手の届くところには置かないでください。

キャノピーの生理作用

熟成堆肥を施用して栽培された作物は、生理作用が活性化して旺盛な生育をします。作物は栄養素を吸収し、補酵素と結合して活性化した酵素が生化学的反応を進行することにより、生育に必要な構成成分を生成し、生育します。

熟成堆肥のような有機物分解生成物には、補酵素になる要素の各種アミノ酸、ビタミン類、有機酸類、糖蜜等を含有しており、これらを吸収した作物は生化学反応が活発になり、生理作用が活性化します。

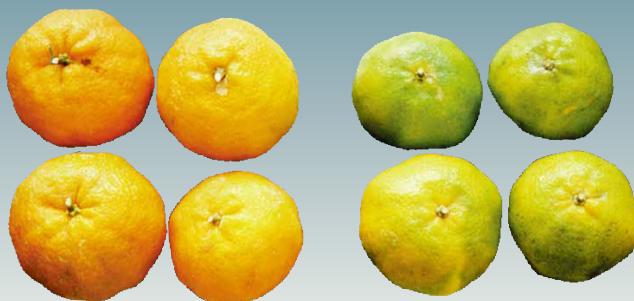
キャノピーは、バイオの技術を用いて、熟成堆肥と同様な有機物分解生成物を濃縮して、さらに、マグネシウム、ほう素、マンガン等、作物に必要な栄養素を添加し、作物が効率的に吸収できるよう葉面に散布する肥料です。

キャノピーを吸収した作物は、熟成堆肥を施用する栽培と同じように生理作用が活性化し、生育が旺盛になります。

“違い”は、はっきり分かれます。

キャノピーの散布試験結果より

ポンカンに対する試験事例



場所：鹿児島県南さつま市

品種：吉田ポンカン

散布：'99 7/25, 8/22, 9/19

収穫：12/1

モモに対する試験事例



場所：熊本県人吉市

品種：あかつき

散布：'98 4/21, 4/28, 6/3, 6/9

収穫：6/25

使用上の注意

- 使用前に容器をふって内容を攪拌してください。



サンケイ化学株式会社

本社 〒891-0122 鹿児島市南栄2-9 ☎099(268)7588(代)
東京本社 〒110-0015 東京都台東区東上野7-6-11 ☎03(3845)7951(代)

輸入元：株式会社パルサー・インターナショナル

2212SA/BU2